

令和7年度 学校評価報告書



越前町立 朝日中学校

目次

| | | |
|----------------|-----|-------|
| <スクールプラン> | ・・・ | 1 |
| <学校評価年間計画> | ・・・ | 2 |
| <総括表> | ・・・ | 3 |
| <具体項目別評価表と実践例> | | |
| 確かな学力 | ・・・ | 4～5 |
| 豊かな心 | ・・・ | 6～7 |
| 体力及び心身の健康 | ・・・ | 8～9 |
| 家庭・地域・小学校との連携 | ・・・ | 10～11 |
| <学校関係者評価書> | ・・・ | 12 |
| <資料> | | |
| 評価基準 | ・・・ | 13 |
| 生徒アンケート結果 | ・・・ | 14 |
| 教職員アンケート結果 | ・・・ | 15 |
| 保護者アンケート結果 | ・・・ | 16 |

令和7年度 越前町立朝日中学校 スクールプラン

◇**保護者・地域の願い**
 ・学習、部活動、校外活動等に生き生きと前向きに取り組んでほしい
 ・いじめがなく、安心して楽しく学校生活を送ってほしい
 ・ふるさとに愛着と誇りをもってほしい

◇**生徒の実態**
 ・明るく素直で、親近感ももてる
 ・行事等で団結力を発揮し、努力する
 ・SNSの使用等、自己管理に課題がある

【**校訓**】 「進取」 「精思」 「創造」
 【**教育目標**】 **志高く 思い深く 未来を拓く 生徒の育成**
 【**目指す学校像**】
 ・チーム朝日で、意図的・計画的に教育的に教育活動に取り組む学校
 ・安全で安心な教育環境を築き、活気と笑顔あふれる学校
 ・生徒・保護者・地域に信頼される学校
【目指す生徒像】
 ・自ら課題を見付け、見通しをもち、自ら解決しようと取り組む生徒
 ・多様性を大切にし、違いを認め合い、尊重し合える生徒
 ・心身ともに健康で、たくましく活動する生徒



◇**越前町教育目標**
 すべての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと協働的な学びの実現
 ◇**学校教育方針**
 個性と協働が共存する学校教育
 ～個性を発揮し多様な人々と協働しながら課題に取り組む～

◇**朝日地区小中連携目標**
 子どもたちの育ちをつなげよう
 ～主体・協働の実現～

確かな学力

◎ 主体的・協働的な学びの実現
 ・個に応じた学習指導の実現

・生徒主体の協働探究プロジェクト学習の質を高め、幅広い発信を通してより深い学びにつなげる。
 ・ICTを取り入れた様々な学びの形態を設定し、生徒の主体的な学びへとつなげる。
 ・授業や家庭学習の中で、個に応じた課題について、自己決定の場を設定する。
 ・選択学習や全校学習会などの多様な学びの場を設定し、自分なりの取り組み方についての自己学習方法の定着を図る。

・「授業に主体的に取り組んでいる」と回答する生徒85%以上（「とてもよくできた」と回答する生徒50%以上）
 ・「授業や家庭学習で、自分に合った学習方法を考えたり、内容を選択したりすることができた」と回答する生徒85%以上

豊かな心

◎ 自己指導能力の育成
 ・認め合い、尊重し合える生徒の育成

・生活チェックリストを教員が確認し、生徒と教員で振り返る場を設ける。
 ・学級活動や生徒会活動、学校行事を通して、全生徒の主体的な活動を引き出すとともに、互いの活躍を認め合う活動の機会を設ける。

・「生活チェックリストの点数（7月・12月）が31点以上」と回答する生徒90%以上
 ・「自ら考え行動することで、集団（学級・学校）に貢献できた」と回答する生徒95%

体力及び心身の健康

◎ 心の安定を図る、心の変化を見取る取組
 ・健康保持の意識づくりと実践

・教育相談や定期的なアンケート、日頃の生徒との触れ合い等によって生徒の心の状態を把握し、問題の早期解決に努めるとともに、サポートルームの活用及びSCや関係機関との連携により、居心地のよい学級・学校づくりに努める。
 ・保健指導や保健体育の授業、委員会活動等を通して、生徒が健康・体力づくりの大切さについて自ら考え、実践する。

・「学校での様々な活動に安心して取り組めた」と回答する生徒95%
 ・「健康保持と体力の向上に努めて学校生活を送ることができた」と回答する生徒90%以上

家庭・地域・小学校との連携

◎ 地域に根ざした学びの充実
 ・小中連携事業の推進

・探究的な学びを軸としたふるさと学習を推進し、地域の未来を考え創造しようとする生徒を育成する。
 ・小中学校教員間の授業参観と研究協議を実施し、子どもの学ぶ姿を通して、学びのつながりや子どもたちの育ちを共有する。

・「住んでいいる地域について、自分ができるところを進んで考えている」と回答する生徒80%以上
 ・「義務教育9年間を見通して、生徒に必要な資質・能力を育むように努めた」と回答する教職員90%以上

事項目標

具体的取組

数値目標

業務改善のための取組

1. 手をかけすぎない指導…学校行事・部活動・諸会議等における、「手をかけすぎている」部分の洗い出しと改善（主体性を育む）
2. 教育DXの推進…教師の業務効率化と生徒の学習支援
3. 新たな挑戦…チーム担任制、日課表の見直し、外部機関との連携等

- ・80時間超過勤務者ゼロ
- ・月45時間未満者の割合増

令和7年度 学校評価年間計画

朝日中学校

| 月 | 日 | 曜 | 内 容 |
|----|----|---|--|
| 4 | 上旬 | | ○校内評価委員会(各部会) ・重点目標、具体的な取組、数値目標の検討 |
| | 中旬 | | ○校内評価委員会(全体会) ・重点目標、具体的な取組、数値目標の決定 |
| 5 | 13 | 火 | ◇第1回家庭・地域・学校協議会 ・学校参観、スクールプラン、年間評価計画の説明 |
| 6 | 2 | 月 | ◇学校参観(指導主事学校訪問日 授業参観) |
| | 下旬 | | ☆生徒、保護者、教員アンケート実施 |
| 7 | 中旬 | | ○校内評価委員会(各部会) |
| | 28 | 月 | ○校内評価委員会 →○中間自己評価書の作成 |
| 8 | 下旬 | | ◇第2回家庭・地域・学校協議会(紙面での報告・中間自己評価報告書の送付) |
| | 25 | 月 | ○校内評価委員会(職員会議) ・2学期に向けた改善策の確認と共通理解 |
| 9 | 9 | 火 | ◇学校参観(体育祭) |
| | 10 | 水 | ◇学校参観(文化祭) |
| 11 | 25 | 火 | ◇学校参観(指導主事学校訪問日 授業参観) |
| | 下旬 | | ☆生徒、保護者、教員アンケート実施 |
| 12 | 中旬 | | ○校内評価委員会(各部会) |
| 1 | 6 | 火 | ○校内評価委員会 →年間自己評価書の作成 |
| | 20 | 火 | ◇第3回家庭・地域・学校協議会 ・学校参観、年間自己評価書の説明、意見交換 →◇学校関係者評価書の作成 |
| 2 | 9 | 月 | ◇第4回家庭・地域・学校協議会 ・学校関係者評価書の説明、意見交換 →○学校評価報告書の作成 |
| | 16 | 月 | ○学校評価報告書の提出〆切 →学校評価報告会(2/25(水)) |

令和7年度 年間自己評価 総括表

| 項目 | 総合評価 | 重点目標 | 評価 | 具体的取組 |
|---------------|------|---------------------|----|---|
| 確かな学力 | B | ①主体的・協働的な学びの実現 | B | <ul style="list-style-type: none"> ・生徒主体の協働探究プロジェクト学習の質を高め、幅広い発信を通してより深い学びにつなげる ・ICTを取り入れた様々な学びの形態を設定し、生徒の主体的な学びへとつなげる |
| | | ②個に応じた学習指導の実現 | B | <ul style="list-style-type: none"> ・授業や家庭学習の中で、個に応じた課題について、自己決定の場を設定する ・選択学習や全校学習会などの多様な学びの場を設定し、自分なりの取り組み方についての自己学習方法の定着を図る |
| 豊かな心 | B | ①自己指導能力の育成 | B | <ul style="list-style-type: none"> ・生活チェックリストを確認し、生徒と教員で振り返る場を設ける |
| | | ②認め合い、尊重し合える生徒の育成 | B | <ul style="list-style-type: none"> ・学級活動や生徒会活動、学校行事を通して、全生徒の主体的な活動を引き出すとともに、互いの活躍を認め合う活動の機会を設ける |
| 体力及び心身の健康 | B | ①心の安定を図る、心の変化を見取る取組 | A | <ul style="list-style-type: none"> ・教育相談や定期的なアンケート、日頃の生徒との触れ合い等によって生徒の心の状態を把握し、問題の早期解決に努めるとともに、サポートルームの活用及びSCや関係機関との連携により、居心地のよい学級・学校づくりに努める |
| | | ②健康保持の意識づくりと実践 | B | <ul style="list-style-type: none"> ・保健指導や保健体育の授業、委員会活動等を通して、生徒が健康・体力づくりの大切さについて自ら考え、実践させる |
| 小学校・家庭・地域との連携 | B | ①地域に根ざした学びの充実 | C | <ul style="list-style-type: none"> ・探究的な学びを軸としたふるさと学習を推進し、地域の未来を考え創造しようとする生徒を育成する |
| | | ②小中連携事業の推進 | A | <ul style="list-style-type: none"> ・小中学校教員間の授業参観と研究協議を実施し、子どもの学ぶ姿を通して、学びのつながりや子どもの育ちを共有する |

具体項目別評価表

| | |
|------|-------|
| 具体項目 | 確かな学力 |
|------|-------|

| | |
|----------------------------------|------|
| 重点目標 | 総合評価 |
| ①「主体的・協働的な学びの実現」 ②「個に応じた学習指導の実現」 | B |

| 具体的取組 | 具体的取組の取組状況 | 評価 |
|--|--|----|
| <ul style="list-style-type: none"> ・生徒主体の協働探究プロジェクト学習の質を高め、幅広い発信を通してより深い学びにつなげる ・ICTを取り入れた様々な学びの形態を設定し、生徒の主体的な学びへとつなげる | <p><スクールプラン数値目標>生徒アンケート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「授業に主体的に取り組んでいる」と回答する生徒85%以上(「とてもよくできた」と回答する生徒50%以上) <p><達成状況と評価> 90.3%(A) (とてもよくできた31% まあまあできた60%)</p> | B |
| | <p><資料>教員アンケート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「生徒主体の協働探究プロジェクト学習の質を高め、幅広い発信を通してより深い学びにつなげることができた」 <p><達成状況と評価>2.9Pt(C)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ICTを取り入れた様々な学びの形態を設定し、生徒の主体的な学びへとつなげることができた」 <p><達成状況と評価>3.1Pt(B)</p> | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・授業や家庭学習の中で、個に応じた課題について、自己決定の場を設定する ・選択学習や全校学習会などの多様な学びの場を設定し、自分なりの取り組み方についての自己学習方法の定着を図る | <p><スクールプラン数値目標>生徒アンケート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「授業や家庭学習で、自分に合った学習方法を考えたり、内容を選択したりすることができた」と回答する生徒85%以上 <p><達成状況と評価> 79.6%(B) (とてもよくできた32% まあまあできた47%)</p> | B |
| | <p><資料>教員アンケート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「授業や家庭学習の中で、個に応じた課題について、自己決定の場を設定することができた」 <p><達成状況と評価>3.1Pt(B)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「選択学習や全校学習会などの多様な学びの場を設定し、自分なりの取り組み方についての自己学習方法の定着を図ることができた」 <p><達成状況と評価>3.1Pt(B)</p> | |
| | <p><資料>保護者アンケート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「お子様は、主体的に学習に取り組んでいる」 <p><達成状況と評価>54% 2.6Pt(C)</p> | |

| |
|--|
| 総括 |
| <p>1. 重点目標①「主体的・協働的な学びの実現」については、B評価とした。</p> <p>○毎月、定期的に教科会を設定したことで、プロジェクト学習について教員間で協議したり共有したりする時間を確保することができた。また、プロジェクト学習2年目ということで、昨年の取組を生かしながら、より深い学びにつなげることができた。</p> <p>○11月より新タブレット(iPad)になり、様々な学びの形態を教員間で学び合ったり、研修に参加したりしたことで、生徒の活動の幅を広げることができ、生徒の意欲向上につながった。</p> <p>△新タブレットが導入され、まだ研究段階である。慣れない操作に戸惑い、前向きに活動できなかった生徒もいた。</p> <p>2. 重点目標②「個に応じた学習指導の実現」については、B評価とした。</p> <p>○テスト前や学期末には、学年と各教科担当が協力し、課題の提出範囲や期限をできるだけ早く生徒に示し、それを常に教室に掲示したり、Teamsで配信したりした。「見える化」を図ったことで、生徒は自身で課題提出に向けた計画を立てたり、空き時間を利用して課題を進めたりする姿が見られた。</p> <p>○デジタル・紙両媒体のワークシートを準備することで、個に応じた取り組み方を実現させたり、長期休業中の課題を生徒自身の必要性や目標達成に向けて選択できるようにしたりすることができた。</p> <p>△家庭での学習習慣が身についていない。</p> |

| |
|--|
| 改善策 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・2学期には、より効果的なICTの活用について研究を進めるため、校内DX支援チームを組織した。次年度もこのチームを核として、協働しながら授業力向上に努めていく。また、年度始めに各学年・クラスで話し合った「主体的」に関するキーワードや目標を常に意識させるために、定期的に主体的な取組について振り返る時間を設ける。 ・授業を50分から45分に短縮して生み出された30分間を、生徒の学力や主体性を伸ばす時間として「A-Time(仮)」を導入した。その時間を活用し、学習方法の共有を図る。例えば、級友や縦割りをはじめ、丹生高校との連携なども通して、先輩や仲間の経験を踏まえたより具体的な学び方を教え合ったり、悩みを相談したりする時間を設定する。また、学校での取組や目的等を保護者へ知らせ、家庭での学習の定着に向けた協力を得る。 |

「確かな学力」についての実践

1 主体的・協働的な学びの実現

昨年度スタートした「生徒主体の協働探究プロジェクト学習」を継続し、確実なものとすることを目標とし取り組んできた。年度はじめの教科会で単元を貫く学習課題を構想し、各教科、各学年で最低一つずつの課題を設定した。毎年、取組を増やしたり少しずつ手を加えたりしていくことで、学校全体として主体的・協働的な学びを生み出すためのプログラムが確実に充実してきていると感じる。



また、ICTの活用について、活用する際に考えられるマイナス面を重く捉え過ぎず「まずは使ってみる」という姿勢を優先し、様々な気づきを常に共有していくことで、我々教員の意識改革とスキルアップを目指した。タブレット端末が新しくなったこともあって、ICTの活用状況は教員、生徒ともあらゆる面で確実に向上している。現在、「主体的・協働的な学び」のための有効な活用法や学習形態とはどのようなものか…といった本来の目的に沿うための模索が続いている。

さらに、上記2点の取組をより強化する目的で「公開授業の設定と参観、気づきの共有」「協働探究プロジェクト学習のふりかえり」を行った。気軽に授業を見合い、気づきを共有し合う公開授業は2期開催し、互いのスキルアップにつながっている。12/18(木)に開催したプロジェクト学習報告会では、取組の成果や課題などを互いに共有し議論した。どの教員も時間を忘れるほど熱い議論がされ、教科の枠を超えた協働的で深まりのある研究会となった。構想したプログラムの質が今後さらに高まり、主体的・協働的な学びへとつながることが期待される。

2 個に応じた学習指導の実現

生徒の学力向上を図るために、昨年度と同様、月に1回全校学習会を開いた。自習、教え合いや質問会など、多様な学びの場を設定し、生徒へ事前にアンケートをとることによって学びの形態



を自己決定させた。今年度は、生徒会役員の発案による学習会も開催した。また、テスト前や学期末には、できるだけ早く課題の提出範囲と期限を生徒に知らせ、それを教室に常時掲示したり、生徒へ配信したりするなど、「見える化」を図った。そのことで、生徒は自分自身のペースで課題に取り組んだり、空き時間を上手に活用したりしながら課題を提出することができた。

学習の自己調整力を身につけさせるために、個に応じて課題の量や学習方法について自己決定する機会を設けた。長期休業の課題においては、生徒自身の目標に応じてテキストを購入する「選択購入」を行った。多くの生徒が共通の課題に加え、自分の苦手を克服するため、より得意なことを伸ばすためにテキストを購入し、最後まで取り組んだ。また、アプリ学習(スタディサプリ)も継続して導入しているため、生徒は自分に合った学習方法で、前向きに学習に取り組む姿が見られた。

しかし、生徒は「自分に合った」学習方法を考えたり、内容を選択したりすることに自信がもてない生徒もまだ少なくない。今後も、生徒それぞれの目標や課題に合った学習方法の確立を目指していく。

具体項目別評価表

| | |
|------|------|
| 具体項目 | 豊かな心 |
|------|------|

| | |
|----------------------------------|------|
| 重点目標 | 総合評価 |
| ①「自己指導能力の育成」 ②「認め合い、尊重し合える生徒の育成」 | B |

| 具体的取組 | 具体的取組の取組状況 | 評価 |
|--|---|----|
| ・生活チェックリストを確認し、生徒と教員で振り返る場を設ける | <スクールプラン数値目標>生徒アンケート ・「生活チェックリストの点数（7月・12月）が31点以上」と回答する生徒90%以上 <達成状況と評価> 87.2% (B) | B |
| | <資料>教員アンケート ・「生活チェックリストを確認し、生徒と教員で振り返る場を設けることができた」 <達成状況と評価> 3.0Pt (B) | |
| ・学級活動や生徒会活動、学校行事を通して、全生徒の主体的な活動を引き出すとともに、互いの活躍を認め合う活動の機会を設ける | <スクールプラン数値目標>生徒アンケート ・「自ら考え行動することで、集団（学級・学校）に貢献できた」と回答する生徒95% <達成状況と評価> 77.8% (B) （とてもよくできた30% まあまあできた48%） | B |
| | <資料>教員アンケート ・「学級活動や生徒会活動、学校行事を通して、全生徒の主体的な活動を引き出すとともに、互いの活躍を認め合う活動の機会を設けることができた」 <達成状況と評価> 3.4Pt (A) | |
| | <資料>保護者アンケート ・「お子さんは、自他ともに安心して集団生活を送るための力が身につけている」 <達成状況と評価> 84% 3.0Pt (B) | |

| 総 括 |
|---|
| <p>1. 重点目標①「自己指導能力の育成」については、B評価とした。 ○生活チェックリストの回答を項目ごとにデータ化し、各学級や委員会の活動に用意して役立てようとしたことができた。 △生活チェックリストの回答を分析したところ、自己評価を高く見積もる生徒がいるなど実態とは異なる結果も見られたが、生徒自身が振り返ったことに対して、生徒個人と教員でじっくり考える時間を設けることができなかつたなど振り返りが不十分であった。</p> <p>2. 重点目標②「認め合い、尊重し合える生徒の育成」については、B評価とした。 ○学校祭などの各行事に加えて3年生の総合的な学習などの授業のなかで、小集団に分けて役割を細分化し、小集団のリーダーを中心とした活動を取り入れ、普段活躍の場が少ない生徒にも活躍の場を与えることができた。 △前期の評価と後期の評価を比べると生徒アンケートによる評価が14.5Pt下がった。否定的回答した生徒の理由をみると、「主体的、積極的に取り組めていない」「貢献できていない」と自己評価している生徒が多く、より自分自身について質の高い振り返りができていたと考える。 △学校祭や校外学習などの行事のあとにメッセージカードの交換などを通じて、活躍した生徒に対して認め合う場を設定しているが、形式的になってしまい、活躍している生徒を心から尊重できる生徒の育成には至っていない。</p> |

| 改善策 |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・生活チェックリストの活用として、自分自身の振り返りだけでなく、クラスの問題点を学級活動の議題として話し合ったり、委員会に関わる項目について各委員会での話し合いに取り入れたりするために、A-Time(仮)を活用し、生徒がフィードバックするための確かな時間を確保する。 ・互いの活躍を認め合う場を設定するだけでなく、普段の学校生活の中で生徒同士のあいさつや拍手など互いを認め合う行動につながるよう、生徒会や学級会等の議題として取り組んだり、今以上に教員が模範を示したりするなど生徒に促す。 |

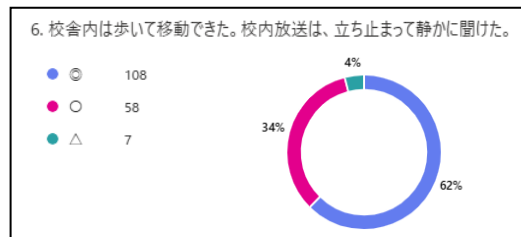
「豊かな心」についての実践

1 自己指導能力の育成

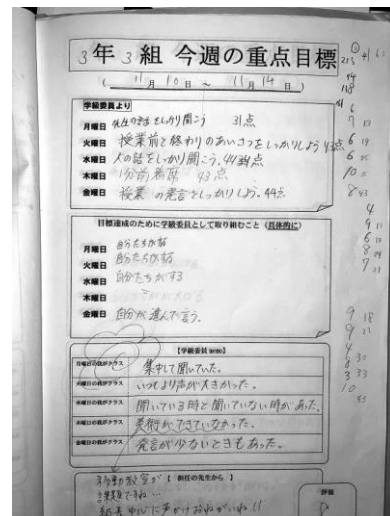
(1) 生徒による重点目標の設定、振り返り

毎月末に15項目からなる生活チェックリストを用い自己の振り返りを行った。振り返り方法については、自己の課題や変容についてチェックしやすい紙によるものと、学校全体や学年、学級の課題が分析できるデータによるものと二通りで行った。

毎朝級長が学級の一日の重点目標を設定し朝の会で呼び掛け、毎授業後に級長が教科担当教員に10段階で評価してもらい、1日の平均を帰りの会で報告した。



〈生活チェックリスト〉



〈重点目標〉

2 認め合い、尊重し合える生徒の育成

(1) 学校祭企画

今年も学校祭では、全クラスがそれぞれ1つの企画を担当するクラス別企画を行った。小学生も参加しやすいような企画を考えたり、学校祭後にメッセージを交換し合ったりするなど、生徒一人一人が役割をこなし、それぞれが自己存在感を感じる活動となった。



〈クラス企画の様子〉



〈メッセージ交換〉

(2) 小集団のリーダーを中心とした活動

各学年のふるさと学習では、生徒たちが課題意識をもち今後のことを考えた、より継続的、発展的な取組を行っている。

1年生は行き先をクラスごとに決めて校外学習を行い、各クラスの実行委員が目的やスローガンを決めた。また、各クラス内では少人数の班を編成し、班長を中心に一人一人が役割を持って活動する様子が見られた。

2年生は越前町の課題や現状を知り、解決していく方法を考えるふるさと再発見活動を行った。調べ学習、校外活動、まとめ活動などの活動全体で、班長を中心に協力して活動する姿が見られた。

3年生は越前町の課題解決に向けた探究学習を行った。実行委員と各グループの班長が連携し毎時間の活動内容や反省を共有することで、生徒自らPDCAサイクルを実行した。中間報告では、互いの探究内容に積極的に意見を交流させる姿が見られた。



〈1年生校外学習〉



〈2年生ふるさと再発見活動〉



〈3年生探究活動〉

具体項目別評価表

| 具体項目 | 体力及び心身の健康 | |
|---|---|------|
| 重点目標 | | 総合評価 |
| ①「心の安定を図る、心の変化を見取る取組」 ②「健康保持の意識づくりと実践」 | | B |
| 具体的取組 | 具体的取組の取組状況 | 評価 |
| <p>・教育相談や定期的なアンケート、日頃の生徒との触れ合い等によって生徒の心の状態を把握し、問題の早期解決に努めるとともに、サポートルームの活用及びS Cや関係機関との連携により、居心地のよい学級・学校づくりに努める</p> | <p><スクールプラン数値目標>生徒アンケート ・「学校での様々な活動に安心して取り組めた」と回答する生徒95% <達成状況と評価> 92.6% (B) (とてもよくできた48% まあまあできた45%)</p> <p><資料>教員アンケート ・「教育相談や定期的なアンケート、日頃の生徒との触れ合い等によって生徒の心の状態を把握し、問題の早期解決に努めるとともに、サポートルームの活用及びS Cや関係機関との連携により、居心地のよい学級・学校づくりに努めることができた」 <達成状況と評価> 3.4Pt (A)</p> <p><資料>保護者アンケート ・「学校は、お子さんにとって安心して活動に取り組める場所である」 <達成状況と評価> 86% 3.2Pt (A)</p> <p><資料>保護者アンケート ・「お子さんは、学級や部活動で交友関係に悩まずに生活を送っている」 <達成状況と評価> 87% 3.2Pt (A)</p> | A |
| <p>・保健指導や保健体育の授業、委員会活動等を通して、生徒が健康・体力づくりの大切さについて自ら考え、実践させる</p> | <p><スクールプラン数値目標>生徒アンケート 「健康保持と体力の向上に努めて学校生活を送ることができた」と回答する生徒90%以上 <達成状況と評価> 89.8% (B) (とてもよくできた53% まあまあできた37%)</p> <p><資料>教員アンケート ・「保健指導や保健体育の授業、委員会活動等を通して、生徒が健康・体力づくりの大切さについて自ら考え、実践させることができた」 <達成状況と評価> 3.0Pt (B)</p> <p><資料>保護者アンケート ・「お子さんは、健康に気をつけて生活している」 <達成状況と評価> 82% 3.1Pt (B)</p> | B |
| 総括 | | |
| <p>1. 重点目標①「心の安定を図る、心の変化を見取る取組」については、A評価とした。 ○中間評価と比較し、生徒アンケートの結果は2.7Pt下がり、B評価となった。また、2つの保護者アンケートの結果はどちらもB評価からA評価に上がった。これらは各種アンケートや教育相談、日頃の生徒の様子を観察から、問題点の早期発見、迅速な対処・指導を行った結果と考えられる。さらに、教室への入室に困り感のある生徒に対しては、3つのサポートルームを状況に応じて活用することによって、安心して学校生活を送ることができるようにした。また、7月には心の健康づくりについての講演会を行い、他者に援助を求める大切さを学んだ。 △保護者アンケートでは、安心面86% (中間評価から2Pt増) 交友関係面87% (同1Pt増) という結果であった。安心面については、数値は上がったものの、決して高いとは言えない。チーム担任制になったことで保護者が誰に相談するとよいかを迷うという声を聞くが、そのことも原因の1つと考えられる。</p> <p>2. 重点目標②「健康保持の意識づくりと実践」については、B評価とした。 ○中間評価と比較し、生徒アンケートの結果は2Pt下がり、B評価となった。保健においては、発育測定や各検診によって自己の健康状況を意識させるとともに、保健だよりによって各時期に合わせた健康に関する情報を提供することができた。また、委員会活動としては、給食時に放送委員から食と栄養に関する話をしたり、保健委員や体育委員で健康に関するポスター掲示や健康ビンゴ等を実施したりした。 △生徒アンケートの数値がわずかに下がったのは、感染症流行の時期に体調を崩す生徒が多かったことや、2学期から実施した健康チェック「Best コンディションカード」で健康的な生活に対する意識が高くなってきたことが考えられる。</p> | | |
| 改善策 | | |
| <p>・気がかりな生徒に対しては、今後も早めに対応できるようケース会議を実施し、場合によってはスクールカウンセラーとの面談も呼び掛ける。 ・昼休みを利用して相談会を実施したり匿名で相談できる仕組みを作ったりして、困り感のある生徒の早期発見に努める。 ・保護者の不安は少しずつ軽減しているが、今後も生徒、保護者から相談等があった際には、学年全体で対応していくことを伝えていく。 ・「Best コンディションカード」を今後も継続して実施していくとともに、全校的な傾向を保健委員会で分析し、その結果をもとに健康に関する呼び掛けを行う。</p> | | |

「体力及び心身の健康」 についての実践

1 心の安定を図る、心の変化を見取る取組

(1) サポートルームの設置・運営

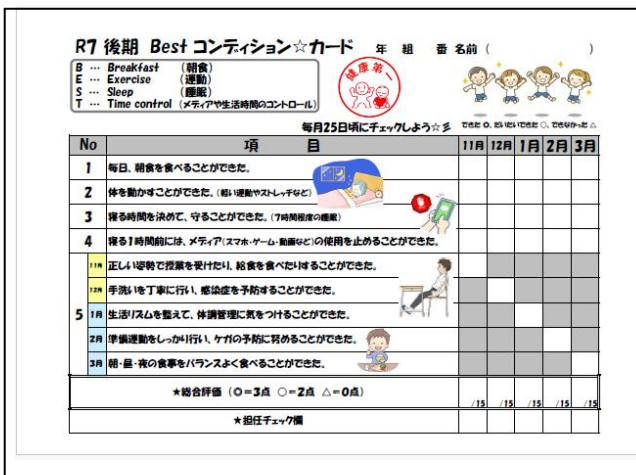
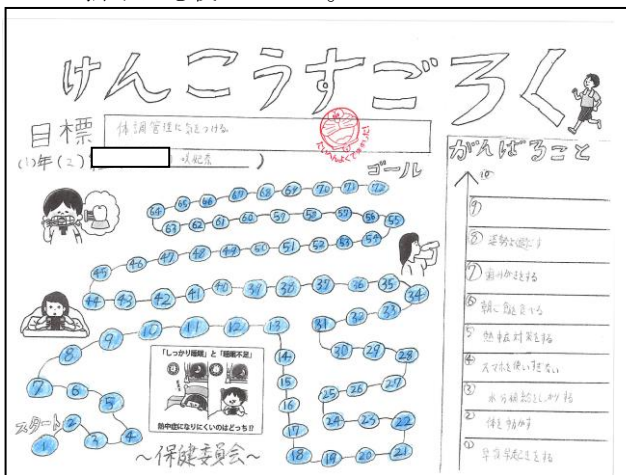
昨年度からサポートルームとして3部屋（従来の相談室、カウンセリング室、小会議室）に支援員が2名という体制になった。

(2) サポートルーム利用生徒への支援

- ・学年の教員の呼び掛けや支援員のサポートにより、1名の生徒が教室に戻ることができた。また、3名の生徒がいくつかの授業や学年の活動に参加できるようになってきた。
- ・スクールカウンセラーとの面談を促したところ、数名の生徒が定期的に面談できるようになった。
- ・各学年の教員が積極的にサポートルームを訪れることによって、支援員との連携も深まった。支援員からの情報も保護者に伝えることができた。

2 健康保持の意識づくりと実践

(1) 保健委員会では、夏季休業中の健康保持のため、「健康すごろく」を作り、全生徒に配布した。毎日の生活の中で意識する項目は、各個人の実情に合わせられるよう自分で考える形式にした。2学期には健康保持の意識向上のため、自分の健康に対する意識をチェックする「Best コンディションカード」を製作・実施した。毎月末に朝食、運動、睡眠、季節に関する事項等、5つの項目について自己チェックするカードである。各個人で確認するだけでなく、学校全体の傾向を把握して、全校への呼び掛けにも役立てたい。



<けんこうすごろく>

「がんばること」の項目

- ・姿勢良く過ごす
- ・歯磨きをする
- ・朝ご飯を食べる
- ・スマホをいすぎない
- 等

<Best コンディションカード>

(2) 体育委員会では、冬期休業中の運動不足解消のため、「冬休み体力づくりカード」を制作し、全生徒に配布した。10種類の基本的な運動の中から自分で選んで実施し、カレンダー型の表に記入した。



(3) 9月に入ってからも、たいへん暑い日が続いたため、体育祭において次のような熱中症対策を実施した。①開会式はテントの中で、いすに座って実施した。②午前中の競技の中間に、冷房をかけた教室で15分間の給水タイムを設けた。③昼食の時に冷やした500mlの麦茶を全員に1本ずつ渡した。④午後は応援合戦のみとした。これらの対策や職員がこまめに給水することを呼びかけたため、暑さ自体による体調不良者は少なかったが、リレーでの全力疾走で体調を崩す生徒は数名見られたため種目の見直しも今後必要であると考えられる。

具体項目別評価表

| | |
|------|---------------|
| 具体項目 | 家庭・地域・小学校との連携 |
|------|---------------|

| | |
|------------------------------|------|
| 重点目標 | 総合評価 |
| ①「地域に根ざした学びの充実」 ②「小中連携事業の推進」 | B |

| 具体的取組 | 具体的取組の取組状況 | 評価 |
|--|---|----|
| ・探究的な学びを軸としたふるさと学習を推進し、地域の未来を考え創造しようとする生徒を育成する | <スクールプラン数値目標>生徒アンケート ・「住んでいる地域について、自分ができることを進んで考えている」と回答する生徒80%以上 <達成状況と評価> 50.9% (C) (とてもよくできた23% まあまあできた28%) | C |
| | <資料>教員アンケート ・「探究的な学びを軸としたふるさと学習を推進し、地域の未来を考え創造しようとする生徒を育成できた」 <達成状況と評価>83% 2.9Pt (C) | |
| ・小中学校教員間の授業参観と研究協議を実施し、子どもの学ぶ姿を通して、学びのつながりや子どもの育ちを共有する | <スクールプラン数値目標>教員アンケート 「義務教育9年間を見通して、生徒に必要な資質・能力を育むように努めた」と回答する教職員90%以上 <達成状況と評価> 95.0% (A) (とてもよくできた20% まあまあできた75%) | A |
| | <資料>教員アンケート ・「小中学校教員間の授業参観と研究協議を実施し、子どもの学ぶ姿を通して、学びのつながりや子どもの育ちを共有することができた」 <達成状況と評価>3.2Pt (A) | |
| (参考：家庭との連携について) | <資料>保護者アンケート ・「学校は、お子さんについて、保護者と連絡を取り、適切に対応している」 <達成状況と評価>88% 3.3Pt (A) | / |

総 括

1. 重点目標1「地域に根ざした学びの充実」については、C評価とした。
 △生徒アンケート「住んでいる地域について、自分ができることを進んで考えている」の肯定的回答割合(50.9%)は、目標値より29.1Pt低い。中間評価(74.7%)からも大きく下落した。後期は総合的な学習の時間にふるさと学習を推進し、越前町の課題について調査・探究活動を行ってきたが、生徒自身に自分事としての実感や手応えが十分伴っていないと考えられる。
 △教職員のふるさと学習推進意識(83%、2.9Pt)は、中間評価(76%、2.8Pt)より改善傾向にあるが、生徒同様に伸び悩んでいる。子供たちの変容が捉えにくく、教員も成果を実感できない現状が考えられる。また、探究プロセスの流れは実施できているが、やや形式的になり、本質的な学びの深まりに確信がもちにくいと思われる。

2. 重点目標2「小中連携事業の推進」については、A評価とした。
 ○中間評価と比較して、改善傾向が見られた。10/21糸生小・11/25朝日中で、朝日地区小中連携授業研究会が行われ、小中学校教員が授業づくりについて一緒に考える機会をもつことができた。この研究の深まりの実感につながったと考えられる。
 △「とてもよくできた」の回答割合は、中間評価より6%減となった。個々の意識の中では、改善の余地がまだあると捉えている。過度な負担に注意を払いながら、この研究の質が上がる仕組みを考えたい。

3. 家庭との連携については、保護者の肯定的回答割合(88%、3.3Pt)は、中間評価(86%、3.2Pt)より高い傾向にある。今後も丁寧な対応を心掛ける必要がある。

改善策

- ・生徒が、地域の社会的課題を自分事として捉えられる学習課題を設定し、探究プロセスを形式的な流れから思考の深まりを伴う学びへと転換を図るようにする。また、生徒の変容や学びの成果を、可能な限り見える化し、教員間で共有する仕組みを整えることで、教員の推進意識の向上につなげていく。
- ・探究活動において、生徒が自らの課題をつかむ段階から「地域コーディネーター」を有効に活用し、定期的に助言を受けたり、疑問点を話し合ったりするなど、継続して地域の方々とともにふるさと未来を考え合う活動を展開し、さらに必然性を感じて取り組む手立てを講じる。
- ・小中連携の授業研究では、授業を見る視点を共有して参観の質を高め、短時間でも深い協議ができる場を設定していく。また、授業中の児童・生徒の学びの変容を見取り、研究の成果を実感できる仕組みを整えることで、価値ある学びの場としての認識が高まるようにする。

「家庭・地域・小学校との連携」についての実践

1 地域に根ざした学びの充実

(1) 探究的な学びを軸としたふるさと学習の推進

3年生は「ふるさと再生～越前町をプロデュース！」をテーマに、2年生後半から学習を開始し、3年2学期には「行きたい・住みたい・住み続けたい越前町にするためには？」という問いを立て、17班に分かれて調査・探究を進めている。そのうちCM班は、越前町の魅力を発信するCMを制作し、「ふるさと福井CMコンテスト」に応募した。

また、2年生は「ふるさと再発見から再生へ～地域に対してどんなことができるか考え、貢献しよう～」をテーマに、1年生は個別に「越前町調べ」に取り組み、継続的にふるさと学習を進めている。



【3年生「ふるさと福井CMコンテスト」応募】

(2) 地域の未来を考え創造しようとする生徒の育成

2年生の総合的な学習の時間「ふるさと再発見から再生へ～地域に対してどんなことができるか考え、貢献しよう～」では、4つのテーマ（①子育て・教育環境②地域産業・雇用③観光資源・越前ブランド④住環境・公共交通）ごとにグループを組み、10月の校外学習で町内の施設や機関を訪れて調査活動を行った。その後、現状や課題を整理・分析し、これまでの学びを1年生に向けて発表する機会を設定した。



【2年生総合「中間発表会」】

1年生からは、「地域の課題がよく分かった」など、内容に即した建設的な感想が寄せられた。異学年交流を通じて、互いに刺激を受け合う場となった。

全学年とも、引き続き地域に必要なことや自分にできることを検討し、学びを発展的に継続しながら、他校の取組も含めて互いの探究について共有し、さらにふるさとへの思いを深めていく予定である。また、3学期末には、朝日地区の小中高の交流で互いの「ふるさと学習」について発表し合い、ともに越前町の活性化を考える場をもつ（発表…丹生高校連携生、本校3年、小学6年）。

2 小中連携事業の推進

令和7年5月27日（火）、朝日小学校にて朝日地区の小中学校全教職員が集まり、総会・分科会を開催した。研究テーマ「子どもの育ちをつなげよう～主体・協働・創造の実現～」について共通理解を図り、今年度の事業計画を確認した。



当初の計画どおり、小中相互の授業参観や合同研究会を実施し、共通の視点で子どもの学びを捉えることで、9年間の学びの連続性を確認できる貴重な機会となった。



【朝日地区小中連携授業研究会】

この研究を再開して約2年が経過したが、短時間でも深い協議ができる仕組みを整え、子どもの学びの変容を見える化して共有することで、研究成果の実感につなげていきたい。さらには、朝日地区教職員の、小中連携推進意識の向上にも寄与していきたい。

令和7年度 学校関係者評価書

朝日中学校学校関係者評価委員会

| | |
|----------------------|--|
| <p>確かな学力</p> | <p>今年度の重点目標である「主体的・協働的な学びの実現」および「個に応じた学習指導の実現」に向けて、学校全体で前向きに取組が進められてきたことがうかがえ、着実な歩みが見られた一年であったと感じます。</p> <p>特に、2年目を迎えた「生徒主体の協働探究プロジェクト学習」では、ICTを活用しながら、個人・ペア・グループなど多様な学習形態を生徒自身が選択できる場が工夫されており、生徒の主体性を大切に授業づくりが進んでいます。生徒アンケートで「授業に主体的に取り組んでいる」と回答した割合が90.3%に達していることから、その積み重ねの成果が表れているように思われます。</p> <p>また、「個に応じた学習指導」においても、課題の見える化やICT教材の活用、生徒会による全校学習会の実施など、自ら学ぶとする気持ちを支える環境づくりが丁寧に行われています。</p> <p>その一方で、自分に合った学習方法に迷いを感じる生徒がいることや、保護者アンケートでの「主体的な取組」への評価が54%にとどまっている点は、今後さらに支えていく余地のある部分と考えられます。</p> <p>今後は、新設された「A-Time(仮)」等の取組を通して学び方の具体例を共有する機会を広げるとともに、家庭との連携を深めながら、生徒一人ひとりの学びがより確かなものになることを期待しています。</p> |
| <p>豊かな心</p> | <p>「豊かな心」の育成については、重点目標①②ともにB評価はおおむね妥当であると感じました。</p> <p>まず「自己指導能力の育成」では、生活チェックリストを用いて継続的に自分を振り返る取組が丁寧に行われている点が印象的でした。紙とデータの両面から振り返る工夫や、学級・委員会活動へ生かそうとする姿勢は、生徒の自己管理能力や気づく力を育てる大切な実践であると考えます。また、級長を中心に一日の目標を意識しながら学校生活を送る取組も、生徒の主体性を高める前向きな取組です。一方で、数値目標にわずかに届かなかったことや、一人一人の振り返りをじっくり深める時間が十分でなかった点は、今後さらに工夫できるところだと思われま。</p> <p>次に「認め合い、尊重し合える生徒の育成」では、学校祭やふるさと学習などを通して、多くの生徒に役割や活躍の場が用意されていることがよく伝わってきました。小集団で協力しながら活動する姿は、思いやりや協働する力の育成につながっていると感じます。教員や保護者からの評価が安定していることも、その成果を示していると言えるでしょう。ただ、生徒アンケートの結果に変化が見られたことや、認め合いの活動がやや形だけになってしまう場面があったことは、今後の課題として受け止めたいところです。</p> <p>全体として取組の方向性はともよく、今後は日常の中で自然に認め合える雰囲気づくりと、振り返りの充実が進むことで、さらに豊かな心の育成が深まっていくことを期待しています。</p> |
| <p>体力及び心身の健康</p> | <p>「体力及び心身の健康」に関する取組については、学校が生徒一人ひとりに寄り添いながら、丁寧に実践を重ねている様子が見え、全体として着実な成果が見られると感じました。</p> <p>「心の安定を図る取組」では、アンケート結果からも多くの生徒が安心して学校生活を送れていることが分かります。サポートルームの活用やスクールカウンセラーとの連携など、生徒の状況に応じた支援体制が整えられている点は心強く、実際に教室復帰につながった事例があることも大変意義深いことです。一方で、保護者の安心感については向上傾向にあるものの、相談先の分かりやすさなどについては今後さらに工夫の余地があるように思われます。</p> <p>また「健康保持の意識づくり」では、保健指導や委員会活動を通して、生徒が自分の生活習慣を振り返る機会が多く設けられており、主体的に健康を考える姿勢の育成につながっていると感じました。熱中症対策など安全面への配慮も適切に行われています。今後も、生活リズムづくりへの継続した働きかけに期待します。</p> |
| <p>家庭・地域・小学校との連携</p> | <p>重点目標①「地域に根ざした学びの充実」については、全学年でふるさと学習を軸とした探究活動が進められ、地域課題をテーマにした調査や発表、異学年交流など、学びの機会が着実に積み重ねられている点は大切な成果であると感じます。一方で、生徒アンケート「住んでいる地域について自分ができることを進んでいる」との肯定的回答が50.9%にとどまっていることから、生徒一人ひとりが地域をより身近な存在として捉え、自分とのつながりを実感するまでには、もう一工夫が必要であるとも考えられます。今後、地域の方々との関わりをさらに深めながら、学びの手応えを感じられる取組へと広がっていくことを期待します。</p> <p>重点目標②「小中連携事業の推進」については、小中学校教員による合同研究会や相互授業参観を通して、9年間を見通した指導への理解が深まっており、教職員アンケートでも肯定的回答が95%と高いことから、連携の成果が着実に表れている様子が見えます。</p> <p>また、家庭との連携においても、保護者アンケートで「学校は保護者と連絡を取り適切に対応している」との肯定的回答が88%に達しており、日頃の丁寧な関わりが信頼関係につながっているものと感じられます。</p> <p>以上より、本項目では小中連携や家庭との関係において良好な取組が見られる一方で、地域に根ざした学びについては、今後さらに深まりが期待される分野であると考えます。今後の発展的な取組を見守ってまいります。</p> |
| <p>学校全般その他</p> | <p>年度末を迎え、何かと多用の時期に加え、今年は大雪にも見舞われ、学校運営においてもさまざまなご苦労があったことと拝察いたします。そのような中、この一年間、子どもたちのために日々ご尽力くださった教職員の皆様に、学校評価委員を代表して心より感謝申し上げます。</p> <p>今回の学校評価にあたりましては、4つの重点項目について、先日、令和7年度自己評価書の内容を各担当の先生方から丁寧にご説明いただきました。重点目標や具体的な取組について理解を深めながら、評価委員で確認・協議を行うことができました。</p> <p>各項目の評価につきましては記載のとおりですが、とりわけ総括や改善策においては、現状の課題と今後の方向性が具体的に整理されており、教職員の皆様が共通理解のもとで次年度の教育活動につなげていこうとされている姿勢がよく伝わってまいりました。大変意義のある評価書であると感じております。</p> <p>なお、評価委員からは、教職員の皆様のご健康やご負担の状況を心配する声も聞かれました。この点につきましては、教育委員会へこの評価書をもってお伝えしたいと思っております。</p> <p>結びに、今後ともスクールプランの目標である「自ら学び、自ら考える生徒」「豊かな心を持ち、自他を尊重し支え合う生徒」「心身ともに健康でたくましく活動する生徒」の育成に向け、引き続きご尽力くださいますようお願い申し上げます。総括といたします。</p> |

【以下p13～16は資料】

評価基準について

アンケートの選択肢の基本は、以下の4回答の選択とする。

4(とてもできた) 3(まあまあできた) 2(あまりできなかった) 1(まったくできなかった)

1. 目標の達成状況の評価

(1) 目標が数値化されていない場合

4:4ポイント、3:3ポイント、2:2ポイント、1:1ポイント

| 4段階 | 計算値 | 判断 |
|-----|-------------|--------------|
| A | 3.2以上 | 達成されている |
| B | 3.0以上 3.2未満 | ほぼ達成されている |
| C | 2.5以上 3.0未満 | あまり達成されていない |
| D | 2.5未満 | ほとんど達成されていない |

(例) 「1が9%、2が15%、3が52%、4が24%の場合」
 $(1 \times 9\% + 2 \times 15\% + 3 \times 52\% + 4 \times 24\%) \div 100 = 2.91 \dots \rightarrow$ 評価 C

(2) 目標が数値化されている場合

| 4段階 | カッティングポイント | 判断 |
|-----|------------|--------------|
| A | 目標値の10割達成 | 達成されている |
| B | 8割以上10割未満 | ほぼ達成されている |
| C | 6割以上8割未満 | あまり達成されていない |
| D | 6割未満 | ほとんど達成されていない |

(例)

| 目標値が85%の場合 | |
|------------|---------------------------|
| A | 85%以上 |
| B | $85 \times 0.8 = 68\%$ 以上 |
| C | $85 \times 0.6 = 51\%$ 以上 |
| D | 51%未満 |

2. 具体的方策の取組状況の評価 (1の評価方法に準じる。)

| 4段階 | 判断 |
|-----|----------------|
| A | とてもよく取組ができています |
| B | ほぼ取組ができています |
| C | 工夫・改善が望まれる |
| D | 改善が必要である |

* 生徒の実態も加味した評価とする。

令和7年度 2学期 アンケート結果（生徒対象・11月末実施）

| 質問内容 | 人数 | | | | % | | | | 肯定的回答 | Pt 平均値 |
|---|-----------|------------|-------------|--------------|-----------|------------|-------------|--------------|-------|--------|
| | とてもよかったです | まあまあ良かったです | あまりできませんでした | まったくできませんでした | とてもよかったです | まあまあ良かったです | あまりできませんでした | まったくできませんでした | | |
| 1 授業に主体的に取り組めましたか。 | 66 | 129 | 20 | 1 | 31% | 60% | 9% | 0% | 90.3% | 3.2 |
| 2 授業や家庭学習で、自分に合った学習方法を考えたり、内容を選択したりすることができましたか。 | 70 | 102 | 39 | 5 | 32% | 47% | 18% | 2% | 79.6% | 3.1 |
| 3 自ら考え行動することで、集団(学級、学校)に貢献できましたか。 | 64 | 104 | 42 | 6 | 30% | 48% | 19% | 3% | 77.8% | 3.0 |
| 4 学校での様々な活動に安心して取り組みましたか。 | 103 | 97 | 16 | 0 | 48% | 45% | 7% | 0% | 92.6% | 3.4 |
| 5 健康維持と体力の向上に努めて学校生活を送ることができましたか。 | 115 | 79 | 18 | 4 | 53% | 37% | 8% | 2% | 89.8% | 3.4 |
| 6 住んでいる地域について、自分ができることを進んで考えていますか。 | 49 | 61 | 76 | 30 | 23% | 28% | 35% | 14% | 50.9% | 2.6 |

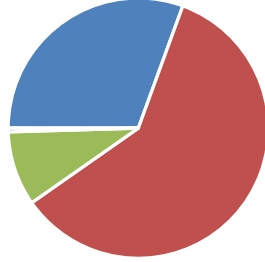
■とてもよかったです

■まあまあ良かったです

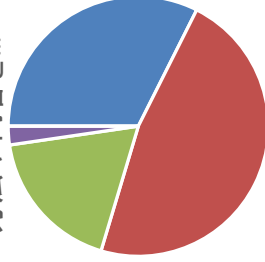
■まあまあできました

■まったくできませんでした

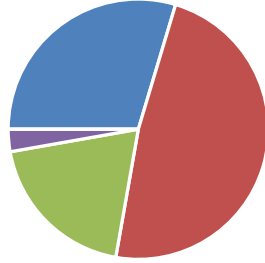
1.授業に主体的か



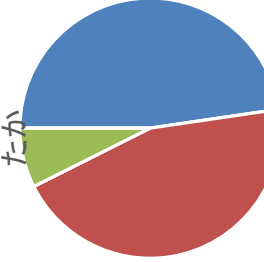
2.自分に合った学習方法や内容を...



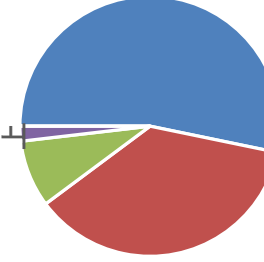
3.自ら考え行動



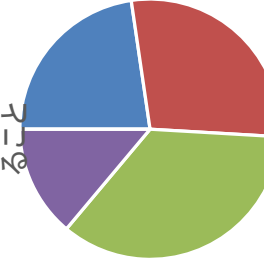
4.安心して活動できたか



5.健康維持と体力向上

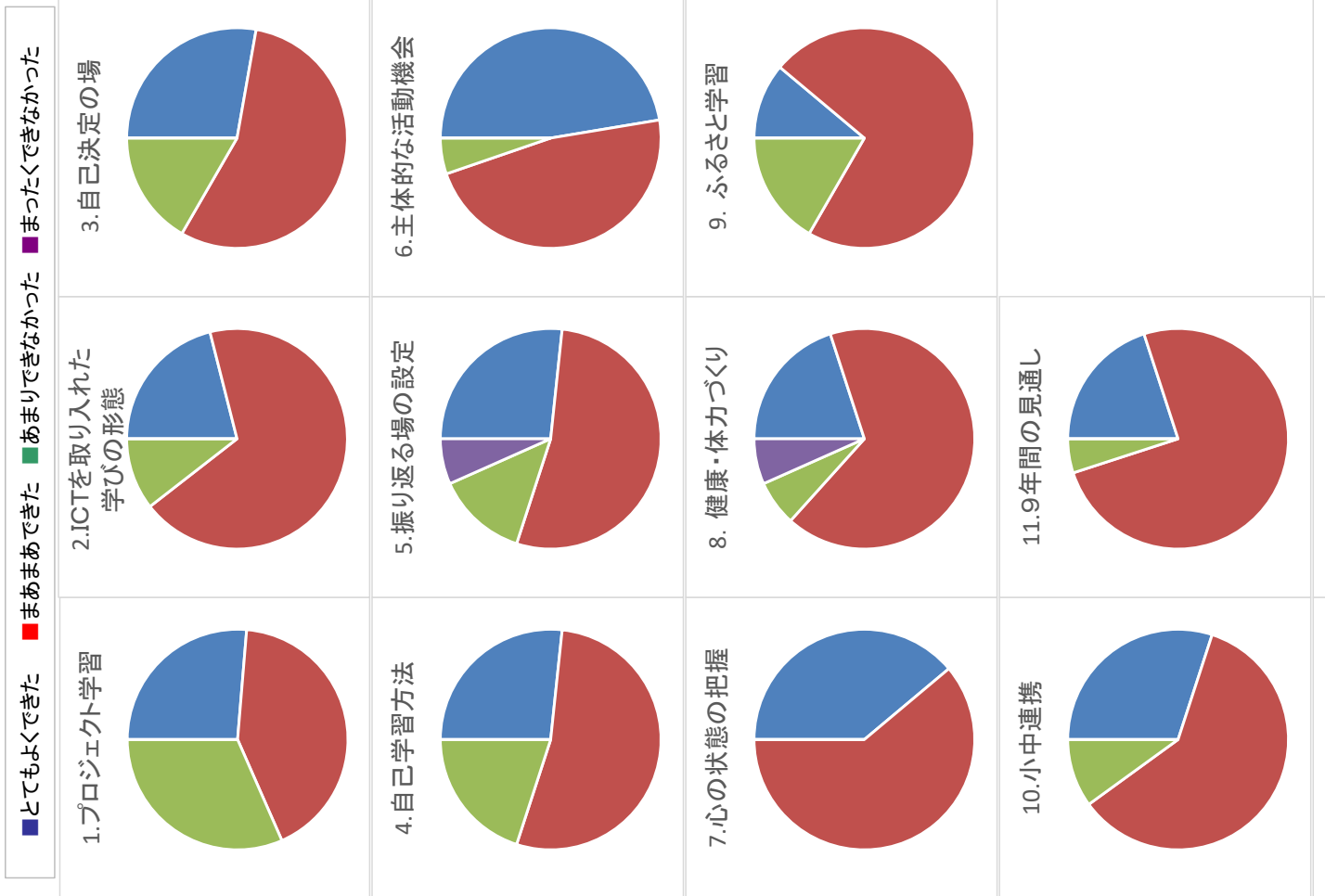


6.地域についてできること



令和7年度 2学期 アンケート結果(教員対象・11月末実施)

| 質問内容 | 人数 | | | | % | | | | 肯定的回答 | Pt 平均値 | |
|---|-----------|------------|------------|--------------|-----------|------------|------------|--------------|-------|--------|-----|
| | とてもよかったです | まあまあ良かったです | まあまあ良かったです | まったくできませんでした | とてもよかったです | まあまあ良かったです | まあまあ良かったです | まったくできませんでした | | | |
| 1 ①生徒主体の協働探究プロジェクト学習の質を高め、幅広い発信を通してより深い学びにつなげることができましたか。 | 5 | 8 | 6 | 0 | 1 | 26% | 42% | 32% | 0% | 68% | 2.9 |
| 2 ②ICTを取り入れた様々な学びの形態を設定し、生徒の主体的な学びへとつなげることができましたか。 | 4 | 13 | 2 | 0 | 1 | 21% | 68% | 11% | 0% | 89% | 3.1 |
| 3 ③授業や家庭学習の中で、個に応じた課題について、自己決定の場を設定することができましたか。 | 5 | 10 | 3 | 0 | 2 | 28% | 56% | 17% | 0% | 83% | 3.1 |
| 4 ④選択学習や全校学習会などの多様な学びの場を設定し、自分なりの取り組み方についての自己学習方法の定着を図ることができましたか。 | 4 | 8 | 3 | 0 | 5 | 27% | 53% | 20% | 0% | 80% | 3.1 |
| 5 ⑤生活チェックリストを確認し、生徒と教員で振り返る場を設けることができましたか。 | 4 | 8 | 2 | 1 | 5 | 27% | 53% | 13% | 7% | 80% | 3.0 |
| 6 ⑥学級活動や生徒会活動、学校行事を通して、全生徒の主体的な活動を引き出すとともに、互いの活躍を認め合う活動の機会を設けることができましたか。 | 9 | 9 | 1 | 0 | 1 | 47% | 47% | 5% | 0% | 95% | 3.4 |
| 7 ⑦教育相談や定期的なアンケート、日頃の生徒との触れ合い等によって生徒の心の状態を把握し、問題の早期解決に努めるとともに、サポートルームの活用及びSCや関係機関との連携により、居心地のよい学級・学校づくりに努めることができましたか。 | 7 | 11 | 0 | 0 | 2 | 39% | 61% | 0% | 0% | 100% | 3.4 |
| 8 ⑧保健指導や保健体育の授業、委員会活動等を通して、生徒が健康・体力づくりの大切さについて自ら考え、実践することができましたか。 | 3 | 10 | 1 | 1 | 5 | 20% | 67% | 7% | 7% | 87% | 3.0 |
| 9 ⑨探究的な学びを軸としたふるさと学習を推進し、地域の未来を考え創造しようとする生徒を育成することができましたか。 | 2 | 13 | 3 | 0 | 2 | 11% | 72% | 17% | 0% | 83% | 2.9 |
| 10 ⑩小中学校教員間の授業参観と研究協議を実施し、子どもの学ぶ姿を通して、学びのつながりや子どもの育ちを共有することができましたか。 | 6 | 12 | 2 | 0 | 0 | 30% | 60% | 10% | 0% | 90% | 3.2 |
| 11 ⑪義務教育9年間を見通して、生徒に必要な資質・能力を育むように努めることができましたか。 | 4 | 15 | 1 | 0 | 0 | 20% | 75% | 5% | 0% | 95% | 3.2 |



令和7年度 2学期 アンケート結果(保護者対象・11月末実施)

| 質問内容 | 人数 | | | | % | | | | 肯定的回答①(全体比) | 肯定的回答②(除0) | 平均値 | |
|---------------------------------------|------|--------|---------|------|------|--------|---------|------|-------------|------------|-----|-----|
| | そう思う | ややそう思う | あまり思わない | 思わない | そう思う | ややそう思う | あまり思わない | 思わない | | | | |
| 1 学校は、お子さんについて、保護者と連絡を取り、適切に対応している。 | 85 | 90 | 19 | 5 | 6 | 41% | 44% | 9% | 3% | 85% | 88% | 3.3 |
| 2 お子さんは、主体的に家庭学習に取り組んでいる | 40 | 70 | 61 | 33 | 1 | 20% | 34% | 30% | 16% | 54% | 54% | 2.6 |
| 3 お子さんは、自他ともに安心して集団生活を送るための力が身についている。 | 43 | 124 | 25 | 8 | 5 | 21% | 60% | 12% | 4% | 81% | 84% | 3.0 |
| 4 お子さんは、健康に気をつけて生活している。 | 59 | 105 | 34 | 3 | 4 | 29% | 51% | 17% | 1% | 80% | 82% | 3.1 |
| 5 学校は、お子さんにとって安心して活動に取り組める場所がある。 | 62 | 106 | 24 | 4 | 9 | 30% | 52% | 12% | 2% | 82% | 86% | 3.2 |
| 6 お子さんは、学級や部活動で交友関係に悩まずに生活を送っている。 | 76 | 96 | 17 | 8 | 8 | 37% | 47% | 8% | 4% | 84% | 87% | 3.2 |

■ そう思う ■ ややそう思う ■ あまり思わない ■ 思わない

